優しく強い子に!



http://www.minamih.net/ **南NEWSno 77** ます。(由井三小の2年・4年には南の子0です)

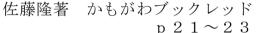
10月30日(土) は由井三小の運動会でした。 矢上も朝から参観しました。各学年種目は徒競走と表 現だけでしたが全員が一生懸命でした。それがグング ン伝わってきました。



みんなが写 っているわけ ではないので すが、南の子 が在籍する学 年の写真を撮 りました。

3年生 80M走 フィンランドの 21・11・ 1(月)教育についての文章の合間に、運動会の写真を掲載し

フィンランドに学ぶべきは『学力』なのか!





「学力低下」や「勉強離れ」は、日本 の学校を支配し続けてきた「競争の教育」 が行き詰まり、勉強することが自分にど う役立つのかが見えにくくなっている状 況とあいまって、これまでのようには「受 験」などの競争刺激がはたらかない事態 を背景にしています。その意味では、「競

1年生表現「Wになっておどろう」 争の教育」に由来する「苦役としての学 習」システムが崩壊する兆候であるとともに、これに代わるべき教育の内容と 方法を、子どもたちが待ち望んでいることの表れであると理解すべきです。

そうだとすれば、「学ぶ」とはどういうことか、そして「学力」という言葉 に託すべき内実とは何かを、子どもたちとともに、いまある現実の世界の中に 描き直していく努力が、ますます重要かつ緊急なものとなってきているといえ るのではないでしょうか。

おそらく、その第一歩は、これまで私たち自身も 知らず知らずにとらわれてきた「日本型高学力」の 質的弱点を真正面に据えて問い直すことから始まる のだと思います。

「できないよりはできるほうがいい」からとして、 「まずできるようにしてしまう」という発想が、多 かれ少なかれ現在の学校を支配している雰囲気のも とでは、子どもたちは間違いを恐れ、わからないと

きには黙っているということを身につけてしまうに違 5年生 100M走 いありません。そうではなくて、「わからないことを『わからない』と言える」 、「間違うことがみんなの役に立つと思える」そして「納得できるまで考えら れる」ような、安心と自由な文化を、教室と授業の場面にどのように創り出し ていくかが、まずは問われているのだと思います。



3年生 表現

「Yui3チアダンス ハッピーズ」 第三に、このようにして、ひとりの「問い」がみんなの「問い」として共有

されるような関係が生まれ、その意識が 深められていけばいくほど、学習と学力 を、単に個人の営みや「所有物」にとど めるのではなく、クラス全体の共有財産 として捉える発想が豊かに生まれてくる はずです。そして、子どもたちがそれぞ れの持ち味を発揮しながら、共通の課題 に迫っていく努力と楽しさの経験は、社会



第二に、そのような雰囲気の中で営ま

1年生 50M走

の課題をそれぞれの能力をより合わせて解いていく「協働(共同)する」学力 観や能力観を育てていくことにつながっていくに違いありません。

わたしたちが、守り抜くべきものと考えてきた戦後教育改革の中で生まれた 47年教育基本法の前文にある「普遍的にしてしかも個性豊かな文化の創造を めざす教育」も、このような学力観を前提としてはじめて成り立つのだと思い ます。



5年生 表現

「全力」「由井三ソーラン」

左から一人目・二人目は南の子



6年生 表現



「豊年太鼓 2021輝」

敬老席の方々が「鐘がいいね!」と褒めていました。運動会のフィナーレを 飾り、盛り上げる「豊年太鼓」。今年も迫力満点でした!!感動!!!!



- 3 -